

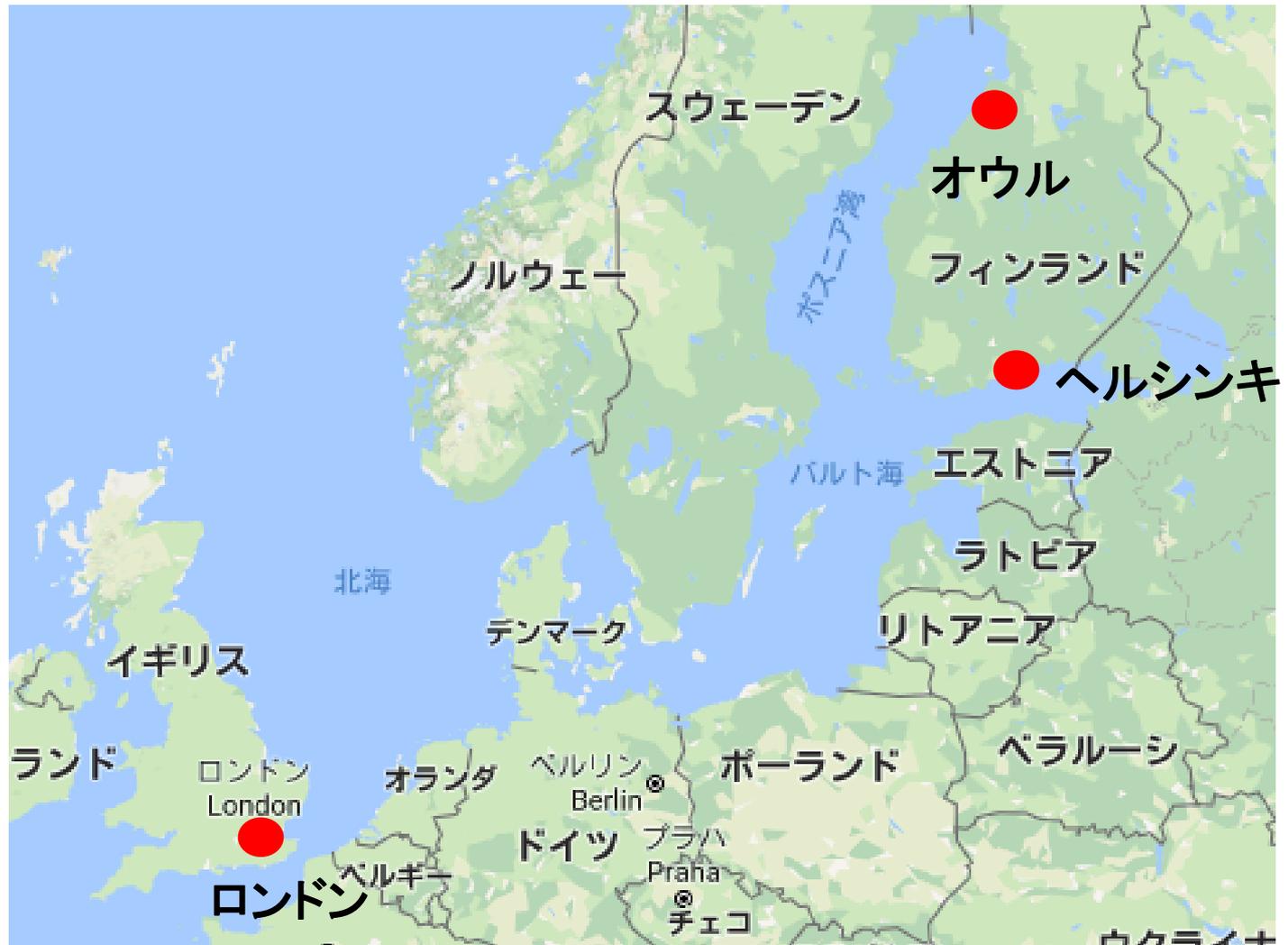
京都府議会海外調査 フィンランド・イギリス調査団 報告

平成29年9月29日

調査団長：二之湯真士

団員：尾形 賢 磯野 勝 岸本 裕一
本田 太郎 前窪義由紀 成宮真理子
森下 由美 岡本 和徳 諸岡 美津

調査先の位置関係



欧州調査団 行程とテーマ

フィンランド 8月28日(月)～8月30日(水)

・オウル市 8月28日(月)

1 「オウル大学」

2 「カリタス」

・ヘルシンキ市 8月29日(火)、8月30日(水)

3 「職業教育学校『オムニア』」

4 「ネウボラ(野口絵美)/「ピックプリシン幼稚園」

欧州調査団 行程とテーマ

イギリス 8月31日(木)～9月1日(金)

- 5 「元カルチュラルオリンピ アード・クリエイティブ
プログラマー／ニューハム区役所」
- 6 「オリンピックパークエネルギーセンター」
- 7 「ザ・クリスタル」
- 8 「ストーク・マンデビル・スタジアム」
- 9 「キューガーデン・キューパゴダ」

1 「オウル大学」

調査日	8月28日(月)
説明者	大学の概要 エサ ニエミ 氏 特別支援教育 トウオモ ヴィルポラ氏 プログラミング教育 アンティ ペルトネン氏 主権者教育 アヌ アランコ 氏

- 特別支援教育について
- プログラミング教育について
- 主権者教育について



エサ ニエミ氏



トウオモ ヴィルポラ氏



アンティ ペルトネン氏



アヌ アランコ氏

(担当: 二之湯真士、尾形 賢)

1 「オウル大学」

【概要】

オウル大学は1958年に創立され、10学部14, 200名の学生が学ぶヨーロッパ北部では最も大きな大学

IT 関連の教育が充実していることが特徴で、今回の調査では、プログラミング教育のうちコーディングの取り組みの他、特別支援教育と、シチズンシップ教育の概要を調査



1 「オウル大学」

【説明内容】

○インクルーシブ教育

- ・障がいのある子どもの教育を受け入れること
- ・ビジョン、位置付け、専用のカリキュラムや試験、サポート、資源、リーダーシップが揃って成功する。

○プログラミング教育(コーディング)

- ・コーディングとは情報技術とコミュニケーション技術のノウハウ
- ・考えることを教えること
- ・独創性や客観的思考、コミュニケーションといった働く環境で、大変役に立つ技術に繋がる

○主権者教育について

- ・市民教育いわゆる「社会科」は主体性や責任感を持つ市民に成長するようにサポートするもの
- ・学校生活の中で生徒の参画権は、義務教育での基本理念として定められている



1 「オウル大学」

【主な質疑】

Q: インクルーシブ教育の成功するもととなるサポート、資源とは何か

A: サポートとは、各学校で個人的なレベルに併せてアシスタントや特別支援教員を配置するシステムや保護者の支援、テストで評価せず、継続的な評価をすること。

資源とは、従来の教室だけでなく、色々なスペースや必要な器具を取り入れること。

Q: コーディングの導入によって、授業内容・時間に変化はあったのか

A: これまでから算数や数学の教科の中で指導されてきた。



1 「オウル大学」

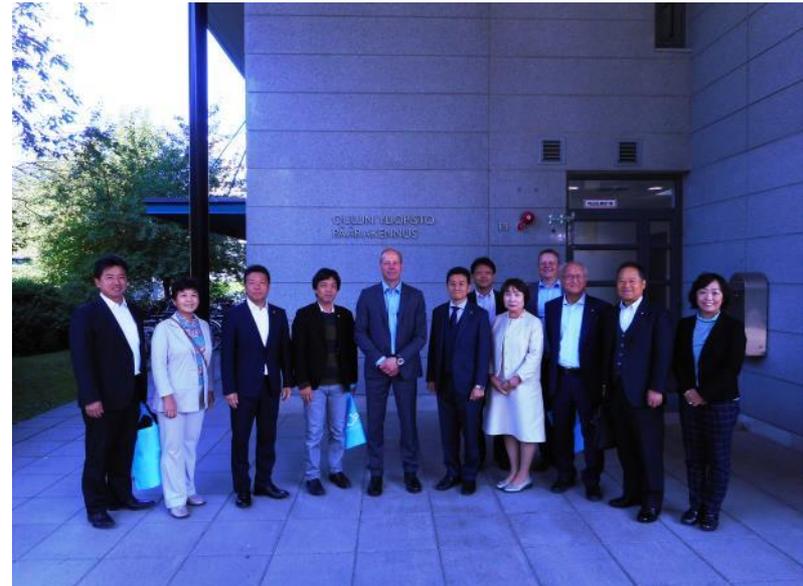
【所感】

インクルーシブ教育は、日本と教育方法や課題が共通した点も多くあった。試験ではなく継続した成長を評価することは重要な要素と感じた。

コーディングをプログラミングの授業として教えるのではなく、数学などの各教科の中で学ばせている点が画期的な取り組みであった

主権者教育において、市民参加ができる人材を育てるという意識のもとで取り組まれている

国際的な立場で活躍できる人材を育むための教育を考えていく必要性を感じた



2 カリタス

障害者・高齢者福祉サービス

調査日	8月28日(月)
説明者	ニーナ ハイニネン 氏

- 施設サービスについて
- 施設の視察



(担当: 諸岡 美津)

2 カリタス

障害者・高齢者福祉サービス

【概要】

- ・カリタスは、2014年にオープンした障害者・高齢者対象の民間福祉施設
- ・入居者のニーズに合わせた高品質なサービスを提供、入居者は24時間体制でスタッフサービスを受けることが可能



2 カリタス

障害者・高齢者福祉サービス

【説明内容】

視察した施設は、2014年にオープン。この他にオウル市内に大規模サービスセンターが3カ所、中規模サービスセンターが15カ所がある。

フィンランドでは一人暮らしか夫婦だけで住む習慣があり、共働きで親の介護ができない、職場が遠くて親の世話ができないなど、アパートでサービスを受けたりサービスセンターに住む場合が増加

カリタスは、コミュニティー全体を考えて行動

500人のスタッフと100人のボランティアメンバーが高齢者や障がい者ケアを実施

利益は、福祉に役立つように全て還元



2 カリタス

障害者・高齢者福祉サービス

【主な質疑】

Q: ボランティアについて

A: 年齢は1歳から93歳。様々な状況の方がいる。ルーテル教会の信者であることは条件ではないが、そういう理念を持っている方が多い。



Q: フィンランドの介護士の給与水準について

A: 給与水準は低い。しかしながら、介護士は魅力ある職業として認識され、人材は足りている。



2 カリタス

障害者・高齢者福祉サービス

【所感】

施設は、カリタスのカラーであるピンクでコーディネートされ、地域の人も利用できる食堂などもあり開放的

施設は、清潔で、利用者からは「この施設は最高です」との感想が聞けた

介護士など、社会に役立つ職業の給与は高くないが、尊敬される仕事と目を輝かせて語られる姿に感銘

社会の為に役に立ちたいとの理念が大きな仕事につながることを実感



3 職業教育学校「オムニア」

保育・介護共通資格制度（ラヒホイタヤ）

調査日	8月29日（火）
説明者	シリア ハッシネン 氏

○オムニアにおける職業教育について 等

○施設の視察



（担当：磯野 勝）

3 職業教育学校「オムニア」

保育・介護共通資格制度(ラヒホイタヤ)

【概要】

職業教育学校「オムニア」は、2006年に周辺の4つの専門学校が合併して設置された。

同校では、約6,000人の生徒が学び、7つのコース、造園、建築、IT、美容、ケータリングなど50種以上の資格が認定される。



3 職業教育学校「オムニア」

保育・介護共通資格制度(ラヒホイタヤ)

【説明内容】

フィンランドの教育システムでは、就学前教育(6歳まで)と義務教育(7歳~16歳)の後、高校又は、職業教育学校に進学
義務教育後、半数以上が職業教育学校に進学

テストの成績よりも、何を学んだか、どれだけのことができるようになったかを重視

同校では、保健、福祉、医療分野(介護や保育など)にまたがる共通資格制度(ラヒホイタヤ)がある

「ラヒホイタヤ」は、准看護師、保育士、リハビリ助手など計10の資格を1本化。一人で複数の分野を掛け持ちできる職員を現場に配置し、柔軟に対応できる



3 職業教育学校「オムニア」 保育・介護共通資格制度(ラヒホイタヤ)

【主な質疑】

(授業を受けている生徒に対して)

Q: 目指している職業は

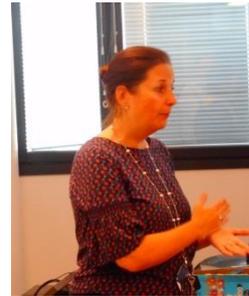
A: 介護、保育それぞれ半々(挙手による回答)

Q: 同校の移民の生徒の割合について

A: 約15%が移民である。また、約80カ国の国から学びに来ている

Q: 授業は何語でされているのか

A: 英語とフィンランド語で行っている



英語の授業をされているリーサ先生



オムニアで行われている継続的な訓練(OJL)についてレクチャーをいただいたペトラ先生

3 職業教育学校「オムニア」

保育・介護共通資格制度(ラヒホイタヤ)

【所感】

ラヒホイタヤのメリットは、一人で子育てから介護サービスまで対応できることである
一方、専門性の希薄化、資格取得や業務の負担増がデメリットとして考えられる。

日本に取り入れる場合は、日本特有の介護、保育のニーズに応えられるかの検証が必要と感じた。



4 ネウボラ／ピックプリシン幼稚園

子育て支援施策

調査日	8月29日(火)、30日(水)
説明者	8/30 野口絵美 氏(ヘルシンキ在住、ネウボラ利用者) 8/29 マーリット ベサネン氏(ピックプリシン幼稚園)

- ネウボラについて
- ネウボラの施設の視察(外観のみ)
- ピックプリシン幼稚園の取組について(略)



(担当: 本田 太郎)

4 ネウボラ／ピックプリシン幼稚園

子育て支援施策

【概要】

- ・ネウボラ(neuvola)とは、アドバイス(neuvo)する場(la)という意味で、フィンランドの全ての自治体にあり、フィンランドの自治体が提供している子育て支援施設とそのサービスを指す。
- ・1920年代に新生児の死亡率が高かったころ、母子の命の安全確保、乳幼児の健康を守るために、小児科医、看護師、助産師らの有志によって無料で開始。1944年に国によって制度化され、全国で800箇所を超える施設が運営。
- ・ネウボラで受診した親に対し、原則一人のネウボラ保健師(ネウボラおばさんとも呼ばれる)が担当する。親への支援を同じ担当者が担うことによって、利用者がたらい回しにされることはなくなる。また、プライバシー保護への配慮から面談は個室で実施している。

4 ネウボラ／ピックプリシン幼稚園

子育て支援施策

【説明内容】

妊娠期から就学前にかけての子ども(6歳まで)とその家族全員を対象とする支援制度

専門教育を受けた同一の保健師による妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援が特徴

ヘルシンキ市においては社会サービス・健康管理課が管轄し、24のクリニックがある

フィンランドでは97%の家庭が利用

設立当初からワクチン接種、健康診断も含め利用は無料。参加も自由



4 ネウボラ／ピックプリシン幼稚園 子育て支援施策

【主な質疑】

Q: 一人のネウボラおばさんが担当する人数について

A: 法律で妊婦は50人、子どもは200人と上限が定められている

Q: ネウボラの利用頻度について

A: 2歳までは月に1回。それ以降は年1回が義務づけられている

Q: 日本の行政サービスとの違いについて

A: 同じ保健師が担当するので、事情を説明する必要がないこと。サービス内容と質は大差はないと感じる



ショッピングモール内に設置されたネウボラを視察



プラバシー保護への配慮から面談は個室で実際

4 ネウボラ／ピックプリシン幼稚園

子育て支援施策

【所感】

同じ保健師が担当するため、体調や家庭の事情等を説明する必要がない

日本の縦割りの行政サービスを横串に通して、利用者に関する状況を行政側で共有すれば、スムーズなサービスに繋がる

フィンランドでは国民全員に固有の番号があり、税・医療など多くの個人情報を一元的に把握し、ネウボラでも活用

日本のマイナンバー制度によって実現しようとしてる利便性が現実化していると感じた。



ピックプリシン幼稚園のマーリット園長先生

5 元カルチュラルオリンピックアード・クリエイティブプログラマー/ニューハム区役所 オリンピックにおける文化レガシー

調査日	8月31日(木)
説明者	・カテリーナ ロリッジオ 氏 (元カルチュラルオリンピックアード・クリエイティブプログラマー) ・ナリンダ ウービン 氏 (ニューハム区役所)

○オリンピックにおける文化レガシー

○オリンピック施設整備、ニューハ地区の再生(略)



カテリーナ さん

(担当:前窪義由紀)

5 元カルチュラルオリンピック・クリエイティブプログラマー/ニューハム区役所 オリンピックにおける文化レガシー

【概要】

北京オリンピックが終わった2008年の9月から4年間のカルチュラル・オリンピックがスタート。12年のオリンピック本番ではロンドン2012フェスティバルという12週間の大規模な国際芸術祭を開催した。

演劇や音楽、ダンス、美術、文学、映画、ファッションなどあらゆる分野にわたる文化イベント総数は約18万件、参加者数は4,340万人、総事業費は220億円。

ロンドンだけではなくイギリス全土1,000箇所以上で実施され、アスリートと同じ204の国と地域から4万人以上のアーティストが参加し、5,000以上の新しい作品が生まれた。

テーマ「英国の誰もがロンドン五輪に参加するチャンスを提供し、創造性を喚起させること」

ビジョン「一生に一度きり」が掲げられ、アーティストたちの斬新なアイデアが数多く実現した。

5 元カルチュラルオリンピアード・クリエイティブプログラマー/ニューハム区役所 オリンピックにおける文化レガシー

【説明内容】

・オリンピック競技大会組織委員会では、「文化の再生」をテーマに設定

○中核的な価値としてのレガシー

- ①世界を招く、②文化、多様性を重視する
- ③若者にインスピレーションを与える

■サウスイースト地区の活動例■

7自治体、人口約800万人

テーマ「木を大切にすること」

思い出のある木材を持ち寄ってもらいボート(船)を製作

参加人数:12,000人

効果:障がい者を見る目が変わったこと
:アートがわかるスポーツマンの出現



5 元カルチュラルオリンピアード・クリエイティブプログラマー/ニューハム区役所 オリンピックにおける文化レガシー

【主な質疑】

Q:子どもたちの参加について

A:学校で文化プログラムが作られたが、
取り組みは少なかった

Q:若者世代への取り組みについて

A:オリンピックのロゴ、マスコット、文化
プログラムの製作に40近くの青年団体と
取り組んだ。

文化への若者の参加を募ることに注力



5 元カルチュラルオリンピック・クリエイティブプログラマー/ニューハム区役所 オリンピックにおける文化レガシー

【所感】

ミュージカル、演劇、オペラ、音楽、美術館、博物館など数多くある。長い歴史と市民に息づく文化・芸術面の力が文化レガシーの背景にあるのではないか

誰もが高い水準の文化・芸術に触れ、参加できるように支援していくことは、国や地方自治体の役割ではないか

2020年東京オリンピックを契機に、新たな価値観を生み出す検討の必要性

各地域で文化・芸術家、すべての住民が集結できる文化プログラムの取り組みの必要性を実感



サッカー場に改修中のオリンピックスタジアム

6 オリンピックパークエネルギーセンター

再生可能エネルギー施策

調査日	8月31日(木)
説明者	タライ カーン 氏

- “世界ーグリーンなオリンピック”から生まれた再生可能エネルギーセンターについて
- 施設の視察



(担当 : 成宮真理子)

6 オリンピックパークエネルギーセンター

再生可能エネルギー施策

【概要】

世界でもっともグリーンなオリンピックを目指して、2012年ロンドンオリンピックのためにレガシー構想の一環としてクイーン・エリザベス・オリンピック・パーク内に建設されたエネルギーセンター

“低炭素排出”を目指し、コージェネレーションシステムの導入によって、独立してパーク内の企業や団地にエネルギーを供給。地域エネルギー供給ではイギリス最大規模

ENGIE(エンジー)という民間会社が独占的にエネルギー事業を実施



6 オリンピックパークエネルギーセンター

再生可能エネルギー施策

【説明内容】

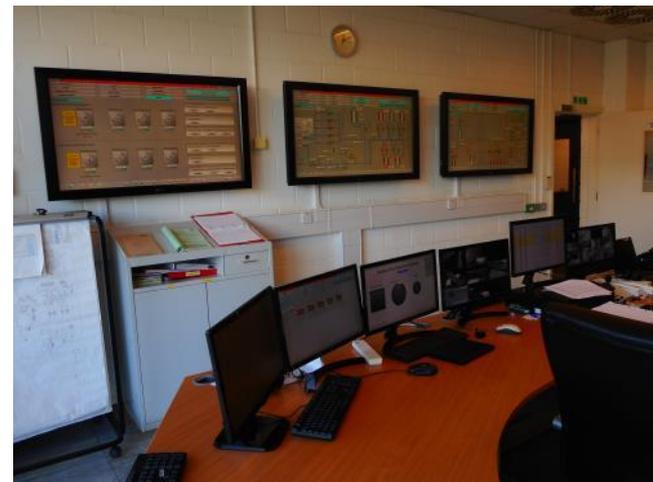
ロンドンオリンピックレガシーを考慮して開発

イーストロンドンのエネルギーを独占的に管理、供給している

この地区内の人々は、ここからエネルギーを調達する必要がある

バイオマスボイラーと天然ガスボイラーでエネルギーを供給。原料の木製チップは、地元100マイル(150km)以内のものと義務づけられている

バイオマスなので、政府から「再生可能エネルギー補助金」を受け取っている



コントロールルームで24時間管理

6 オリンピックパークエネルギーセンター 再生可能エネルギー施策

【主な質疑】

Q: 独占期間について

A: 40年。そのために大型な投資が可能となった

Q: 補助金額について

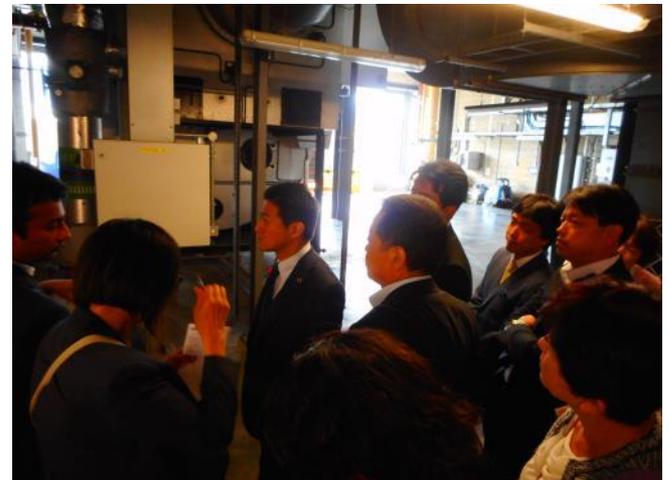
A: 公表できないが、かなりの金額を受け取っている

Q: 発電した電力の供給先について

A: 電力会社に売電している

Q: ENGIE (エンジー) の会社概要について

A: フランスのエネルギー事業を行っている上場企業。従業員約1万人。熱供給事業で約400人。

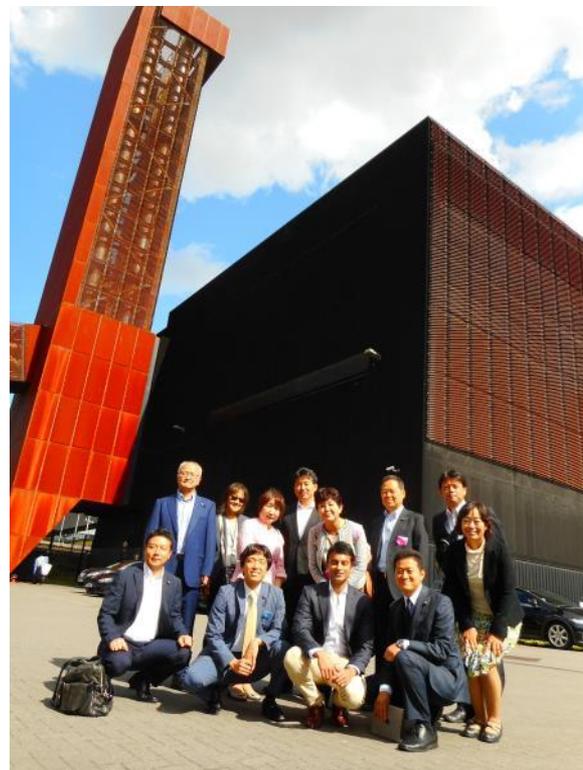


6 オリンピックパークエネルギーセンター 再生可能エネルギー施策

【所感】

イギリスの人々の暮らしや企業活動に温室効果ガス排出ゼロの取り組みが根ざしていることを実感

カーボンフィットプリントの仕組み、バイオマス・エネルギーやコージェネレーションへの政府補助金など、水準の高さに刺激を受けた。



19世紀のキャンディー工場跡をプラントとして活用されている

7 ザ・クリスタル

再生可能エネルギー施策

調査日	8月31日(木)
説明者	メリーサ さん

- ザ・クリスタルの概要について
- 施設視察



(担当: 森下 由美)

7 ザ・クリスタル

再生可能エネルギー施策

【概要】

ドイツの大手電機メーカー、シーメンス社による、「持続可能な世界」を実現するためにどのような取り組みをしていけばよいかを簡潔に説明した展示館であり、2012年9月にオープンした。

この地域は元は工場地帯で土壌汚染があり、土壌改良を行って土台のコンクリートや金属もリサイクル材料を使って建設された。



7 ザ・クリスタル

再生可能エネルギー施策

【説明内容①】

■建物の特徴

雨水を最大3万リットル貯留し、トイレの水や植栽の散水、セントラルヒーティングとしてリサイクル利用している

電力は太陽光パネルを屋根の85%に設置し、施設の12~17%の電力を供給している

コントロールセンターで雨の降る角度で、窓を自動的に開閉するシステムがある

館内の電灯はLEDを使用している。建設当初は、50%だったが今では70%使用



7 ザ・クリスタル

再生可能エネルギー施策

【説明内容②】

■展示の特徴

展示館では、一般の人々向けに、地球温暖化問題に対する理解度や意識を向上させることを目的に、地球温暖化を可視化し、環境問題を説明している

気候変動、環境問題、汚染問題などについて考察するエリアに分かれている

体験やゲームなど楽しみながら、環境問題を身近に感じることができよう工夫



ジョギングで発電測定



市長になって、持続可能なまちづくり



自転車で発電量を測定

7 ザ・クリスタル

再生可能エネルギー施策

【所感】

環境問題を考える展示館

イギリスの小学校の授業などで活用されており、楽しみながら、課題を発見するのに役立っている

環境教育の重要性を再認識

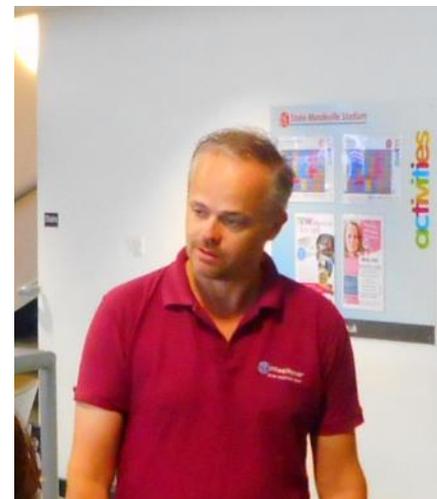


8 ストーク・マンデビル・スタジアム

障がい者スポーツ施策

調査日	9月1日(金)
説明者	ポール ラシュトン 氏

- 障がい者スポーツ施策について
- 施設の視察



(担当:岡本 和徳)

8 ストーク・マンデビル・スタジアム

障がい者スポーツ施策

【概要】

スタジアムはストーク・マンデビル病院国立脊髄損傷センターの所長であった Ludwig Guttman(ルートヴィヒ・グットマン) 医師によって Stoke Mandervillsに設立され、この地で1948年のパラリンピックのルーツと言われる「マンデビル競技大会」が開催された。

現在では体育館、トレーニングジムなどを中心に、障がいのある人もない人も使える設備を整えることにより、おもに身体の障がいの有無にかかわらず施設運営がWheelPower という民間団体などにより行われており、障がい者スポーツの聖地とも呼ばれている。

8 ストーク・マンデビル・スタジアム

障がい者スポーツ施策

【説明内容】

・ストークマンデビルの人口は約5,000人。周辺には約6万人規模の町がある。
2016年の来場者数は約10万人(地域内5万人、地域外5万人)

・施設の目的は身体障がい者の人たちの積極的な社会参画であるが、施設の利用は誰でも可能

・障がいのある人は、利用料が30%の割引

・運動器具は、健常者・障がい者の両方が利用できる設備を用意

・第1回パラリンピックの開催地であり、これまでのパラリンピックで使用された聖火リレーのトーチが保存されており、子どもたちの障がい者スポーツ、パラリンピックの興味・参加意識の醸成に活用



8 ストーク・マンデビル・スタジアム

障がい者スポーツ施策

【主な質疑】

Q: この施設の最も進んでいる点について

A: イギリス国内にナショナルセンターは3カ所あるが、障がい者に優しい宿泊施設が350床ある

Q: 行政の支援について

A: 財政補助はないが、50%減税を受けている

Q: 障がい者のナショナルチームの強化について

A: ナショナルチームには、コーチがいるのでスタジアムが関与することはない。車いすバスケットチームは、コーチが近隣に住んでいることや、近くに空港があることからスタジアムを利用している



8 ストーク・マンデビル・スタジアム

障がい者スポーツ施策

【所感】

パラリンピックの発祥の地、障がい者スポーツの聖地となっていることがスタジアムで働く人の自尊心を高めていると感じた。

運営団体が運営資金調達のために、チャリティイベントとして寄附を目的とした文化・スポーツイベントの開催のほか、独自の宝くじを発行する取組は興味深い。

京都においても、健常者、障がい者に関わりなく「聖地」と呼べる競技があることが望ましい。



9 キューガーデンキューパゴダ

文化財保全・修復

調査日	9月1日(金)
説明者	リー プロッサー教授

- 文化財保全・修復について
- 修復現場の視察



(担当: 岸本 裕一)

9 キューガーデンキューパゴダ

文化財保全・修復

【概要】

キューガーデンとは、ロンドンの西の郊外、市の中心部から自動車で1時間程度の場所にある、世界遺産に認定されている王立植物園

キューパゴダとは、
中国のパゴダ(仏塔)を模して、William Chambers 卿によってデザインされ、Princess Augustaへ献上されたというもので、西洋と東洋との融合となるデザインであり、創建当初より、名所となってきたもの



9 キューガーデンキューパゴダ

文化財保全・修復

【説明内容】

キューパゴダ(仏塔)は宗教的な意味はなく、イギリス国王のために1762年に建設された

八角形の棟、10構造、高さ約50メートル、
253段の階段設置
一層毎に直径が30センチずつ小さくなる構造

各層の各角に龍が設置、合計80の龍が取り付けられている

イギリスでは、Grade I ※、最上位の文化財として登録。

建設当時使用されていた鉛を特別許可をとって修復に使用する予定

※イギリスの歴史的建造物の2%のみが指定



昔のキューパゴダの絵



修復中のキューパゴダ

9 キューガーデンキューパゴダ

文化財保全・修復

【主な質疑】

Q: 工期と予算について

A: 工期は2018年まで、予算は500万ポンド(7億5千万円)である

Q: 創建当時のありように近づけるための努力について

A: 素材の化学分析などを通じて、創建当時の状況を模索している。

Q: 落雷対策について

A: 避雷針を早期から設置している

Q: 建設当時の設計図について

A: 当時の設計図は、現存しており、本として出版もされている



レンガの黒い染みは19世紀の大気汚染が原因とのこと

9 キューガーデンキューパゴダ

文化財保全・修復

【所感】

保全・修復に要する資材などへの配慮の程度に不安な部分もあったが、文化財保全・修復の意気込み・情熱は尊敬すべき点が多かった。

視野を広げて王立植物園キューガーデンと府立植物園を比較すると学ぶところが多いと思われる。

府立植物園の入園料を見直して、その資金で一層の内容充実を図る戦略も一考に値する。



京都府議会海外調査 フィンランド・イギリス調査団 まとめ

